

貨幣銘文のカローシュティ文字ガンダーラ語

—クジュラ・カドフィセスの2種の銅貨—

吉池孝一

1. ガンダーラ語の諸相

カローシュティ文字・プラークリット語(ガンダーラ語)を利用した民族は、インド系・ギリシア系・イラン系など多岐にわたる。時代も紀元前3世紀のアショーカ(Aśoka)王の碑文から、紀元後5世紀頃の木簡などに及ぶのではほぼ600年となる。地域も印度西北からタクラマカン砂漠縁辺に及ぶ。書かれた材料は各種ある。直接石に刻した碑文のようなもの、貨幣のように金型によって打刻したもの、木簡や樺皮などに手書きした写本がある¹。これらに書かれたカローシュティ文字・プラークリット語(ガンダーラ語)は一様ではない。同一の単語であっても部分的に音の表記が異なっているものがある。また、一部の音が異なるだけでなく、語形そのものの構造が異なるものもある。

ここに僅かであるが例を挙げる。Salomon, R. (2008)による大英図書館に所蔵されているガンダーラ語の仏教文書断片(Anavatapta-gāthā。漢訳は五百弟子自説本起経。この手写文書は紀元後のはじめの数世紀にガンダーラ地方で書かれたものという²)と、カニシカ王の父ウィマ・カドフィセス王(在位は紀元後120-143年頃)の貨幣銘文は、地域と年代に大きな差はないのであるが、比較すると次の様な異なりを見出すことができる。サンスクリット語は荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』による。

| 貨幣 | 仏教文書 | Skt. |
|-----------------|-------------------------|--------------|
| 1. maharaja(大王) | maha(great), raya(king) | mahārāja(大王) |

¹ 中日・日中共同ニヤ遺跡学術調査隊(1996)、Salomon, R. (2008)を参照。

² “It is by now a matter of common knowledge among scholars in the field of Buddhist textual studies that in recent years several dozen manuscripts in the Gāndhārī language and Kharoṣṭhī script have come to light, and that these manuscripts, written in the first few centuries A.D. in the ancient region of Gāndhāra (modern eastern Afghanistan and northwestern Pakistan), are the earliest surviving written records of Buddhism.” (Preface XIV)

| | | |
|--------------------|--------------------------|-----------------|
| 2. sarvaloga(全世界) | sarva(all), lughā(world) | sarvaloka(全世界) |
| 3. īśvara(支配者) | īśpare(master) | īśvara(支配者) |
| 4. mahīśvara(大地の主) | | mahīśvara(大地の主) |
| 5. trātara(救済者) | | trāṭṛ(保護者、救助者) |

貨幣と仏教文書が対応する語は3語ある。1の「王」に相当する語をみると、貨幣 raja—仏教文書 rāja—Skt. rāja とある。2の「世界」に相当する語をみると、貨幣 loga—仏教文書 lughā—Skt. loka とある。3の「支配者」に相当する語をみると、貨幣 īśvara—仏教文書 īśpare—Skt. īśvara とある。これによると、貨幣銘文のガンダーラ語と仏教文書のガンダーラ語とは異なる部分がある。僅かな例であるが、貨幣のガンダーラ語は、仏教文書のガンダーラ語よりも、Skt. (サンスクリット) に近似しているように見える。これを有効であるとしたならば、貨幣銘文のガンダーラ語は規範化されたやや古めかしいものを引き継いでおり、このことによって両者の相違が生じたとして良いのかもしれない³。

このような大雑把な比較であっても興味深い点を見出すことはできるのであるが、確実な比較ということであるならば、質を同じくする資料間の比較から始めるべきであろう。また、同質の資料というならば、先ずは同一発行者の貨幣の銘文から始めたならば実りが多いのではなかろうか。

2. 貨幣銘文を調査する利点

貨幣を大きく分けるならば、溶解した金属を鋳型に流し込んで作製する貨幣と、熱した金属を金型で挟んで打刻する貨幣の二種がある。前者は東洋に多く、後者は西洋に多い。東洋の鋳型による貨幣銘文には単純なものが多い。それに比べて、西洋の金型による貨幣は図像が細密であり、銘文も比較的長いものとなっている。もっとも、東洋式の貨幣の銘文であっても、西洋式の貨幣の銘文であっても、貨幣の銘文には次の利点がある。

- ①短く完結している。

³ 以上は吉池孝一(2019)参照。

- ②公的な機関から多量に発行されるので念入りに検討されているはずである。
- ③②より規範的な表記と見なすことができる。
- ④②より従前の表記と異なる場合そこに発行者の意図があると想定することができる。
- ⑤欠落があっても他の同類の貨幣で補うことができる。
- ⑥年代を確定しやすい。
- ⑦図像により文化的な背景を推測することができる。
- ⑧当時の発行枚数は、現在において発見されている枚数に比例していると想定すると、問題とする貨幣の当時に於ける影響の大小を推し量ることができる。

公的な碑文も貨幣銘文と同様に②③④⑥の利点を持つが、公的に大量に発行する貨幣銘文の信頼度には及ばないであろう。手書きの写本に至っては、誤写が多発するであろうから、多数の資料により一定の傾向を見出すことができ初めて大過なく利用することができる。したがって、貨幣銘文から碑文に、そして写本に進むのが初歩の道であろうとおもう。

3. クジュラ・カドフィセス発行の二種の銅貨

古代文字資料館には、カニシカ王の曾祖父⁴クジュラ・カドフィセスが発行した貨幣が二種ある。“ヘラクレスタイプ” (Heracles type) と“ローマ皇帝タイプ” (Roman Emperor type) とされるもので、ともに銅貨である。なお、タイプ分けについては Jongeward, D. and Cribb, J. with Donovan, P. (2015)⁵による。ローマ皇帝タイプの銅貨は、一般に希少なものとされている。このことは Jongeward, D. and Cribb, J. with Donovan, P. (2015) が収める画像数に

⁴ Sims-Williams, N. & J. Cribb (1996) による、“the Rabatak inscription”にあるギリシア文字・バクトリア語の解読により、カニシカの父はウィマ・カドフィセス、祖父はウィマ・タクト、曾祖父はクジュラ・カドフィセスという系譜が判明した。『後漢書』西域傳に「丘就卻年八十餘死，子閻膏珍代爲王」とあり、この碑文の解読がなされるまでは、「丘就卻」(クジュラ・カドフィセス)の子「閻膏珍」はウィマ・カドフィセスであるとされてきた。碑文の解読によりクジュラ・カドフィセスの子はウィマ・タクトであり、孫がウィマ・カドフィセスであることが判明した。これにより『後漢書』の音訳名「閻膏珍」をウィマ・タクトとする議論がみられる。しかし、「閻膏珍」の音および漢字の意味に拠り、音訳語自体はウィマ・カドフィセス指すとする議論もある。この観点によると『後漢書』西域傳の記述は訂正が必要となる。以上は Koichi Yoshiike (2020)による。

⁵ 本書は、クシャン朝の貨幣を網羅して写真と解説を施したものである。

反映している。ヘラクレスタイプの画像は32枚であるが、ローマ皇帝タイプの画像は7枚である。

以下の説明における図像、銘文、訳は上記の書籍による。銘文に付した[]は本館貨幣の銘文で確認することができない部分を示す。

4. ヘラクレスタイプ⁶の銅貨

次に古代文字資料館の銅貨写真を示すと次の通り。図像と銘文の解説は上記の書籍による。



表



裏

^{おもて}表：王の頭像とギリシア文字・ギリシア語の銘文。

[B]ΑΣΙΑΕΩΣ ΣΤΗΡΟΣΣ[Y] [EPMAIOY]

(of King Hermaeus, savior)

^{うら}裏：棍棒を手にしたヘラクレスの立像とカローシュティー文字・ガンダーラ語の銘文。

[kujula] [ka]sasa kushana yavugasa dha[mathidasa]

(of Kujula Kadphises, Kushan *yabgu*, steadfast in the law)

^{おもて}表には、王の頭像の周囲にギリシア文字・ギリシア語が二行書かれている。一行は6時の位置より時計回りに貨幣の内側よりみて[B]ΑΣΙΑΕΩΣ(basileōs 王の)、ΣΤΗΡΟΣΣ[Y](stērossu

⁶ 当館のヘラクレスタイプについては吉池孝一(2016)で紹介したことがある。

【不明】)とある。他の一行は 5 時の位置より反時計回りに貨幣の外側よりみて [EPMAIOY](ヘルマイオスの)とある。[B]ΑΣΙΑΕΩΣ(basileōs)は of King に相当する。ΣΤΗΡΟΣΣ[Y](stērossu)は ΣΩΤΗΡΟΣΣ(sōtēros) savior に相当する。EPMAIOY は王名の Hermaeus (ヘルマイオスの)である。この王はインド・ギリク朝最後の王であるらしく、クジュラ・カドフィセスは、初期の貨幣において、その最後の王の貨幣を模倣したとされる。

裏には、ヘラクレスの立像の周囲にカローシュティー文字・ガンダーラ語が一行書かれている。12 時の位置より反時計回りに貨幣の外側よりみて [kujula ka]sasa とあり、8 時の位置より kushana yavugasa dha[mathidasa]とある。kujula kasasa は王名クジュラ・カドフィセスで英訳の of Kujula Kadphises に相当、kushana は Kushan 、yavugasa の yavug は英訳で yabgu とあるがこれは族長とされるガンダーラ語 (借用語か)。dhamathidasa は steadfast in the law と訳されているが、日本語としては「法に住みたる(法を堅持したる)」⁷ともなるか。

5. ローマ皇帝タイプの銅貨

次に古代文字資料館の銅貨写真を示すと次の通り。図像と銘文の解説は上記の書籍による。



表



裏

⁷ r を付して dhramathidasa ともされる。渡邊弘(1973:59)は“(仏)法に帰依したる”、田辺勝美(1992:174)は“正法の人”とする。thida はパーリ語の thita(形容詞)“住立せる、停住の”に相当する語であろう。パーリ語は水野弘元(1994:114)参照。

表：^{おもて}ローマ皇帝の胸像とギリシア文字・ギリシア語の銘文。

XOPANΣY [ZAOOY KOZOΛA] KAΔΦEΣ

(of Kujula Kadphises, Kushan *yabgu*)

裏：^{うら}椅子に腰かけた王の像とカローシュティエー文字・プラークリット語 (ガンダーラ語)。

以下はカローシュティエー文字をローマ字に翻字したもの。

khushanasa ya'u'asa [kuyula ka]phsasa sa[cadharmathitasa]

(Kujula Kadphises Kushan *yabgu*, steadfast in the true law)

表の銘文は、^{おもて}10時の位置より右回りに XOPANΣY とあり、続く [] は欠落している。5時の位置より KAΔΦEΣ とあり、続く [] は欠落している。XOPANΣY は、国名もしくは民族名の Kushan (クシャン) に当たり、ZAOOY はガンダーラ語 ya'u'asa (*yabgu*) (族長) (借用語か) の音訳であろう。KOZOΛA KAΔΦEΣ は王名の Kujula Kadphises (クジュラ・カドフィセス) に相当する。

裏の銘文は、^{うら}11時の位置より左回りに khushanasa ya'u'asa とあり、続く [] は欠落している。5時の位置より phsasa sa とあり、続く [] は欠落している。khushanasa は Kushan (クシャン) に当たる。Kushan の k が無声有気音 kh で表記されているのは通常の表記と異なる。ギリシア語が XOPANΣY のように X (無声有気音 kh、ローマ字翻字は ch) とするのは、ガンダーラ語の無声有気音の表記 kh に合わせたのでであろう。kaphsasa (カドフィセスに相当) に見える二重子音 phsa の表記は興味深い。子音字 ph と s を上下配置し組合わせて phsa としている。もっとも、子音字 ph の下に sa があることはわかるが、上の子音字 ph はほとんど欠けている。この複子音表記は Glass, A. (2000) が掲載する文字表に見えない。



phsa(ph+sa)



phsa の模写 (Jongeward, D. and Cribb, J. with Donovan, P. 2015に掲載されたコイン画像による)

6. ローマ皇帝タイプとヘラクレスタイプの銘文の比較

次に両タイプの銘文と訳を Jongeward, D. and Cribb, J. with Donovan, P. (2015) によって再度提示し比較をする。なお [] は本館貨幣の銘文で確認することができない部分である。

・ローマ皇帝タイプ

XOPANΣY [ZAOOY KOZOΛA] KΑΔΦΕΣ

(of Kujula Kadphises, Kushan *yabgu*)

khushanasa ya'u'asa [kuyula ka]phsasa sa[cadharmathitasa]

(Kujula Kadphises Kushan *yabgu*, steadfast in the true law)

・ヘラクレスタイプ

[B]AΣΙΑΕΩΣ ΣΤΗΡΟΣΣ[Y] [EPMAIOY]

(of King Hermaeus, savior)

[kujula] [ka]sasa kushana yavugasa dha[mathidasa]

(of Kujula Kadphises, Kushan *yabgu*, steadfast in the law)

両者は国名 Kushan (クシャン) の表記を異にする。ヘラクレスタイプは *kushana* とし語頭は無声無気音の *k* とするが、ローマ皇帝タイプは *khushanasa* とし無声有気音の *kh* とする。この点はギリシア語の銘文にも反映している。XOPANΣY とし無声有気音の *X* (*kh*) とするから単純な誤記ではないことは明らかである。『後漢書』卷八十八「西域傳」に目を転ずると、Kushan は「貴霜」と音訳される⁸。「貴」は、音韻の歴史を遡っても降っても、無声無気音の *k* であるから、Kushan は普通にはヘラクレスタイプのように無声無気音の *k* で始まる語と見て大過は無い。それが何故ローマ皇帝タイプでは無声有気音の *kh* となるのか説明が求められる。

ヘラクレスタイプでは「族長の」を *yavugasa* とするが、ローマ皇帝タイプは *ya'u'asa* とし子音字の *v* と *g* を表記しない。子音字の *v* と *g* を表記しない音形はギリシア語の ZAOOY に

⁸ 「貴霜翁侯丘就卻攻滅四儀侯，自立爲王，國號貴霜。」(貴霜 (クシャン) の翁侯 (部族長) たる丘就卻 (クジュラ・カドフィセス)、四翁侯を攻滅し、自ら立ちて王と為し、国を貴霜 (クシャン) と号す。)

も反映している。ZAOOY の ZAOO はガンダーラ語 ya'u (借用語か) の音訳であろう⁹。

王名の Kujula (クジュラ) であるが、ヘラクレスタイプは kujula のように j を使用するが、ローマ皇帝タイプは kuyula のように y を使用する。この違いは、先に紹介した、ウィマ・カドフィセス王 (在位は紀元後 120-143 年頃) の貨幣銘文と仏教文書との間にもみられる。再度提示すると次の通りである。

| 貨幣 | 仏教文書 | Skt. |
|--------------|-------------------------|--------------|
| maharaja(大王) | maha(great), raya(king) | mahārāja(大王) |

ウィマ・カドフィセスの貨幣銘文では王を raja とし j を使用するが、仏教文書は raya とし y を使用する。Skt. では rāja である。

以上の三つは音の問題であるが、ヘラクレスタイプの dhamathidasa (もしくは dhramathidasa) とローマ皇帝タイプの sacadharmathitasa は語の構造そのものが異なる。

7. 結語

同じ王の下で発行された貨幣の銘文に、何故このような違いが生ずるのか。上の raja と raya から推測することが許されるならば、ヘラクレスタイプの銘文は規範化されたやや古めかしい音形や語形を引き継いでおり、ローマ皇帝タイプの銘文は何らかの口語を反映しているということになる。もっとも、この二種の資料のみでは心もとない。クジュラ・カドフィセスが発行した (発行したとされる) 貨幣にはこの二種以外に複数あるので、先ずこれらの貨幣銘文を精査することが肝要であろう。

参考文献 (発行年順)

渡邊 弘(1973)『西域の古代貨幣』学習研究社。

⁹ クシャン朝の貨幣銘文において、Kujula Kadphises (クジュラ・カドフィセス) の孫 Vima Kadphises (ウィマ・カドフィセス) の Vima は、ギリシア文字では「OOHMO」(ooĕmo) と表記され、カローシュティー文字では「vima or vema」(𑀧 va , 𑀮 va) と表記される。Glass(2000:97-98)によると、'v' は [v]、'v̄' は [w]であるという。それに従うならば [wima][wema]となる。

中村雅之(2018)は、ギリシア文字には /u/ を表す単字がなかったため、OO という綴りによって /w/ を表記したとする。ZAOO の OO も、/w/ もしくは /u/ を意図したもので、その音は zau に近いものとなり、これを以ってガンダーラ語の ya'u (借用語か) に当てたのであろう。

- 荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』新文豊出版公司、1979年影印。
- 田辺勝美編(1992)『[平山コレクション]シルクロードのコイン』講談社。
- 水野弘元(1994)『パーリ語辞典〈二訂版〉』春秋社。
- 中日・日中共同ニヤ遺跡学術調査隊(1996)『中日・日中共同ニヤ遺跡学術調査報告書(第一卷)』法蔵館。
- Sims-Williams, N. & J. Cribb (1996) “A New Bactrian Inscription of Kanishka the Great”, *Silk Road Art and Archaeology* 4, 75-142.
- Glass, A. (2000) A Preliminary Study of Kharoṣṭhī Manuscript Paleography. web上に公開されていたものによる。(http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass_2000.pdf)
- Salomon, R. (2008) *Two Gāndhārī Manuscripts of the Songs of Lake Anavatapta (Anavatapta-gāthā)*, University of Washington Press.
- Jongeward, D. and Cribb, J. with Donovan, P. (2015) *Kushan, Kushano-Sasanian, and Kidarite coins: a catalogue of coins from the American Numismatic Society*. American Numismatic Society.
- 吉池孝一(2016)「二言語併用貨幣の伝播 —ギリシア系バクトリア王国からクシャン朝まで—」『KOTONOHA』第158号(2016年1月)、1-6頁。
- 中村雅之(2018)「ギリシア文字の/w/——クシャン王 Vima Kadphises の表記」『KOTONOHA』第193号(2018年12月)、1-2頁。
- 吉池孝一(2019)「古代文字資料館蔵ウイマ・カドフィセス発行銅貨—銘文について—」『KOTONOHA』第200号(2019年7月)、20-24頁。
- Koichi Yoshiike(2020)“Who is Yan-gao-zhen 閻膏珍 in the *Later Han Chronicle*?” 『東洋哲学研究所紀要』第35号、107-117頁。